

計器進入方式の概要(民間航空機が使用するもの)

計器進入方式は、ICAO ANNEX 6において精密進入、垂直方向ガイダンス付き進入(APV※)及び非精密進入に区別される。

※空港数は民間航空機乗り入れ空港等に限る。

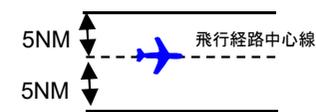
計器進入方式

精密進入		水平方向及び垂直方向のガイダンスを持つ計器進入方式	
—	ILS進入方式	地上のILS機器からの精密な電波を利用し、当該電波に沿って飛行する進入方式	53空港
	PAR進入方式	精測進入レーダーを利用し、航空管制官の指示に従って飛行する進入方式	1空港
垂直方向ガイダンス付き進入(APV)		水平方向及び垂直方向のガイダンスを持つRNP進入方式のうち、精密進入以外のもの	
—	RNP進入方式	航法衛星システムを航空機の測位および位置情報更新手段として使用する航空機のために設定された、航法精度※が指定される進入方式	55空港
	RNP AR進入方式	RNP進入方式のうち、固定旋回半径の適用や航法精度の調整が可能となる、より高度な進入方式	38空港
	LPV進入方式	RNP進入方式のうち、最終進入時にSBAS信号を水平および垂直方向のガイダンスに用いる進入方式	12空港
非精密進入		水平方向ガイダンスのみの計器進入方式	
—	LOC(LDA)進入方式	水平方向の位置情報としてLOCを使用する方式(LDA進入方式:LOC進入方式のうち滑走路とは異なる位置にあるLOCを使用し、滑走路が視認できる位置まで進入後、滑走路へ進入する方式。羽田RWY22/23のみに導入)	15空港
	VOR進入方式	水平方向の位置情報としてVORを使用する方式	78空港
	RNP進入方式(LNAV/LP)	RNP進入方式のうち垂直方向ガイダンスを持たない方式	7空港

※APV: Approach Procedure with Vertical guidance

※航法精度とは、航空機が経路に沿って飛行する際の航法の正確性を数値で示したもの。

例えば、航法精度±5NMとは、全飛行時間の95%において経路中心線から5NM以内で飛行することをいう。(右図)



令和5年4月1日現在